

市文化センターオープン 「いわき市立中央図書館」開館へ

市文化センターは、昭和 48 年度から 13 億 8,000 万円をかけて建設され、昭和 50(1975)年 5 月 2 日、待望のオープンとなりました。

地下 1 階、地上 6 階建てで、1 階には 580 席を備えた大ホールを配置。6 階には児童科学館があり、当時としては県内最大規模のプラネタリウム 245 席と天文台を備え、子どもたちの夢を育てる施設として連日、見学者でにぎわいました。

図書館は、4 階に一般書、5 階に児童書を配置しました。また、移転に伴い「いわき市立平図書館」から「いわき市立中央図書館」へ名称を変更し、昭和 50(1975)年 5 月 3 日に開館しました。

開館時の蔵書数は、平図書館の 2 倍以上に当たる 2 万 8,509 冊（うち児童書は 4,115 冊）でしたが、利用に追いつかず、蔵書不足が指摘されました。

開館時間は、月～木・土が午前 9 時から午後 4 時半、金曜日は午前 9 時から午後 7 時までで、休館日は、日曜祝日のほか、毎月 1 回でした。

貸出冊数は 1 人 3 冊、14 日間（それ以前は 1 人 2 冊、10 日間）となりました。

オープン当時のにぎわいを伝える当時の『いわき民報』(昭和 50 年 5 月 12 日付)には、「文化センターに 3 万 4,000 人 9 日間に市民の 1 割」とあり、多くの市民が押し寄せたことがうかがえます。

図書館も、開館 5 日間で 913 人が新規登録し、1,691 冊を貸出しました。平図書館時代の 1 日の平均利用者 30 人、50 冊程度の貸出に比べると、飛躍的な利用増になったのです。

その後も、利用者は日を追うごとに増加しました。特に児童書の貸出が多く、1 ヶ月もすると児童室の約半分の本が貸出され、書架が空いてしまう事態となっていました。本がないため、ガッカリして帰る子どもの姿もあったそうです。

中央図書館時代は、日曜開館の開始、点字・録音

資料の貸出開始、国際資料コーナーの設置、図書館情報システム導入など、サービスの拡大期となりましたが、平成 19(2007)年 10 月 25 日、いわき駅前再開発ビル「ラトブ」への移転に伴い、32 年の歴史に幕を下ろしました。



『広報いわき』(昭和 50 年 4 月 1 日付)



市文化センター落成式(昭和 50 年 5 月 いわき市撮影)

